

## 米国 税還付の影響でリボルビングは上ぶれ (08年5月消費者信用残高)

発表日：2008年7月10日(木)

～マインド悪化と融資基準厳格化による下押し圧力は続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

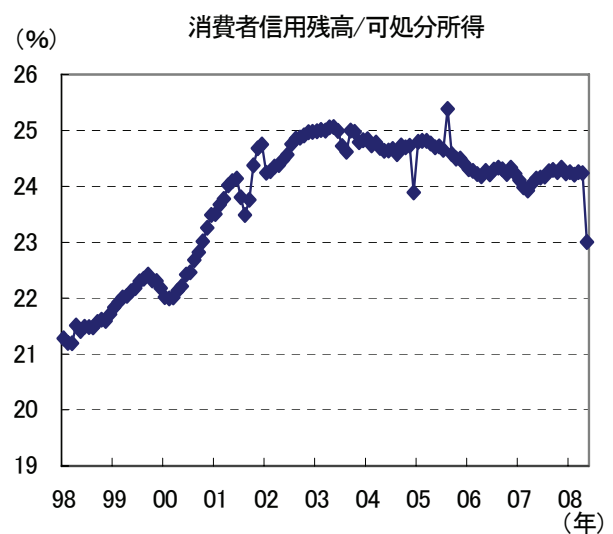
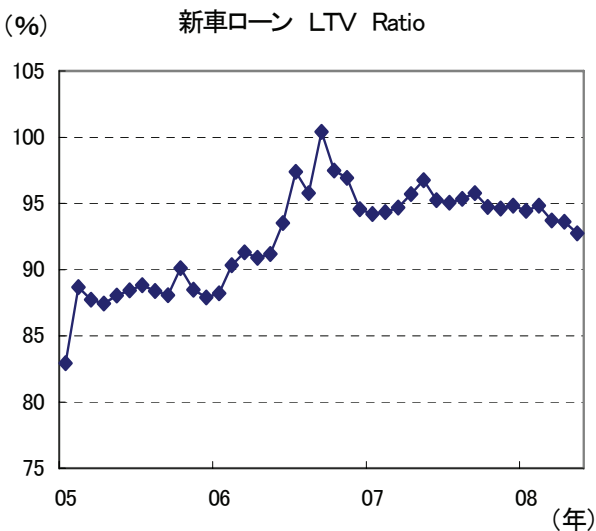
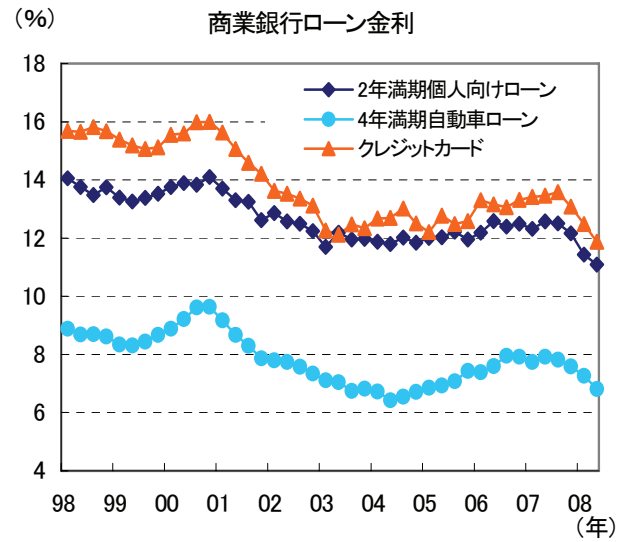
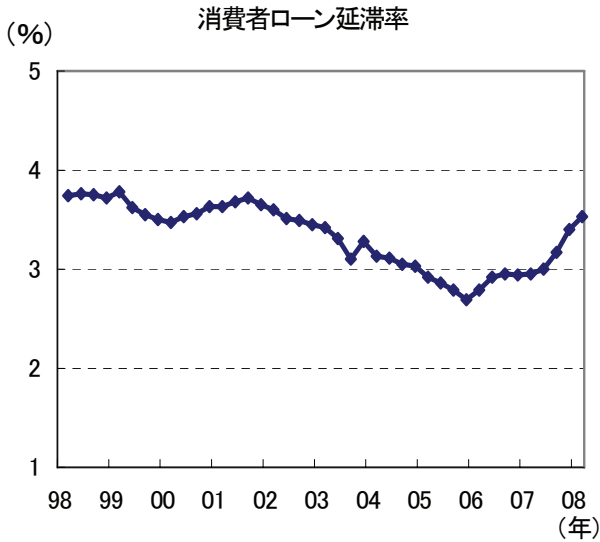
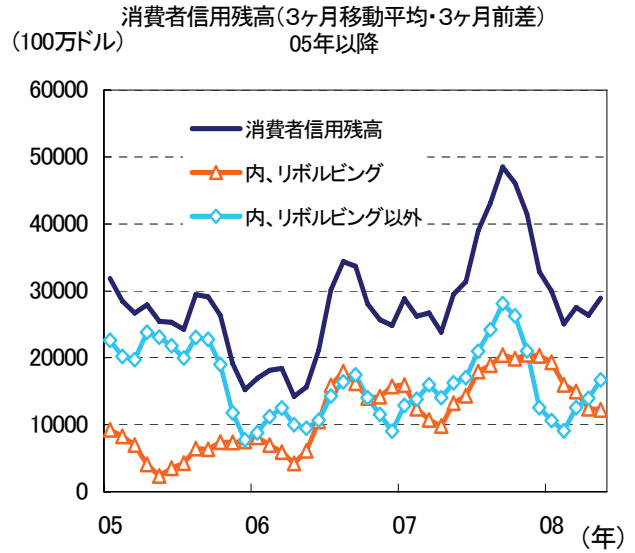
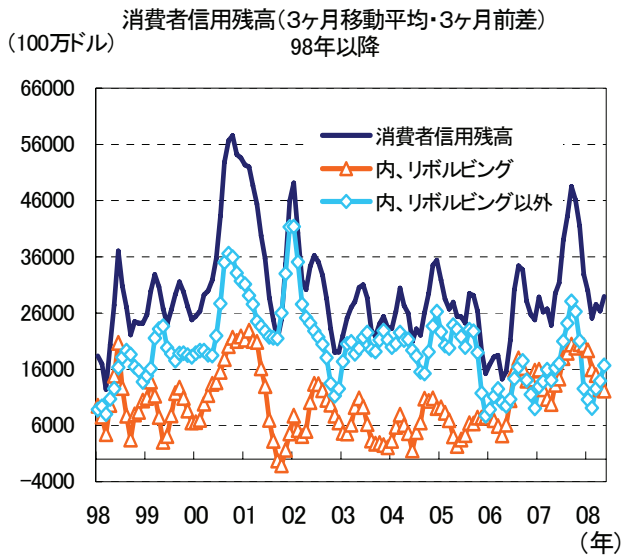
近江澤 猛(おおみさわ たけし)

03-5221-4526

- 08年5月の消費者信用残高(季節調整済)は2兆5706億ドル、前月差+78億ドル(前月比年率+3.6%)と、市場予想の前月比+70億ドルを小幅上回った。3ヵ月移動平均・3ヵ月前差で見ると、消費者マインドの悪化と融資基準の厳格化によって07年10月以降減速基調が続いてきたが、ローン金利の低下と4月28日に開始された所得税の還付による消費押上げの影響から、ここ3ヵ月は概ね増加ペースの横ばいが続いている。
- 内訳はリボルビング(クレジットカード等)が前月差+57億ドル(前月比年率+7.1%)と前月の同▲4億ドル(同▲0.5%)から大幅に加速した。4月28日に開始された所得税減税の影響で5月の消費は押し上げられているが、5月は還付金に占める口座振込みの割合が高く、クレジットカードを利用したの購入も一部押し上げられたとみられる。3ヵ月移動平均・3ヵ月前差で見ると、07年12月から6ヵ月連続の減速と、依然としてリボルビングでの消費行動は下押し圧力が強い状態にあることが窺える。リボルビング以外(自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等)は同+21億ドル(同+1.6%)と前月の同+82億ドル(同+6.1%)から大幅減速したが、前月、前々月と信用力の高い消費者を中心に裁量的な消費が加速した反動とみられる。3ヵ月移動平均・3ヵ月前差で見ると、07年10月以降減速が続いたあと、足元3ヵ月連続で加速しており、リボルビング以外での借入れ需要は比較的底堅い。
- 7月にかけては所得税減税による消費押上げが期待されるが、エネルギー・資源価格が高騰から消費者マインドは悪化を続ける状況下でローンを利用した消費は限定される公算が大きい。また、金融不安が続くもと融資基準の緩和は期待できず、引き続き信用力の比較的低い消費者に対するローン貸出は抑制されよう。その後年末にかけては、所得税減税の効果は剥落するものの、金融機関のバランスシート調整がピークを過ぎ融資基準が緩和されると予想される。その結果、比較的信用力の高い消費者層を中心に、貸出は緩やかに増加していくものとみられる。以上のことから、消費者信用残高の増加ペースは7月にかけて概ね横ばいで推移、その後、08年年末にかけて緩やかに加速することが予想される。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
07/08	2486.9	21.4	10.4	917.2	7.9	1569.7	13.5
07/09	2499.6	12.7	6.1	921.6	4.4	1577.9	8.2
07/10	2504.8	5.3	2.5	929.3	7.7	1575.5	▲2.4
07/11	2522.0	17.1	8.2	939.0	9.7	1583.0	7.5
07/12	2523.6	1.6	0.8	940.6	1.6	1583.0	0.1
08/01	2535.6	11.9	5.7	946.5	5.9	1589.0	6.0
08/02	2542.4	6.9	3.3	950.7	4.2	1591.7	2.7
08/03	2555.0	12.6	5.9	956.6	5.8	1598.5	6.8
08/04	2562.8	7.8	3.6	956.2	▲0.4	1606.6	8.2
08/05	2570.6	7.8	3.6	961.8	5.7	1608.7	2.1

(出所) FRB(連邦準備制度理事会)



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)